



《北海道 今月のイベント》 釧路大漁どんぱく (9月 釧路市)

——“大地の恵み・大海の幸・大空の華”をテーマに開催される「釧路大漁どんぱく」。花火があがる「どん」という音と、美味しいものを「ぱく」と食べて楽しむことから名付けられた「どんぱく」。北海道最大の三尺玉が目玉の花火大会をはじめ、各種イベントが開催される。

(釧路大漁どんぱく公式WEBサイトより抜粋)

INDEX

3 印刷燦燦

4~6 幸せな働き方改革STEP3「業務革新」

7 令和元年度全国青年印刷人協議会北海道・東北合同ブロック協議会・第25回北海道青年印刷人フォーラム案内

7 令和元年度DTP技能検定案内

8-9 第13回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション作品募集案内

10 FFGS主催経営セミナー2019案内

10 新規加入組合員紹介

10 業界のうごき

北海道印刷工業組合

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル

TEL.011-595-8071 / FAX.011-595-8072

[Website] <http://www.print.or.jp> [E-mail] info@print.or.jp



P-00023

この印刷物は、CSRに取り組み印刷会社が製作した印刷物です。

印刷 燦 燦

古希を迎えて

北海道印刷工業組合が昭和15年に設立され、来年5月29日に組合創立80周年記念式典が開催される予定になっている。

振り返ってみると、私の所属する旭川印刷製本工業協同組合も来年2月22日に組合創立70周年を迎えることになる。

歴史を緋けば、旭川の地では明治32年の松井活版所の創業、大正11年8月に旭川印刷製本業組合として34名が参加し発足させている。

昭和15年に北海道印刷工業組合の設立により、旭川地方印刷工業組合が設立になり、旧組合は解消となった。

その後、紆余曲折があり、昭和25年2月12日に現在の形、旭川印刷製本協同組合が同意者25社により設立に至った。

その後、別表のように増加の一途を辿ったが、平成10年を過ぎたあたりから下降し始めている。

年度	加盟数	年度	加盟数
昭和25年	24社	平成元年	58社
昭和31年	37社	平成10年	52社
昭和41年	69社	平成20年	41社
昭和44年	47社	平成25年	38社
昭和54年	43社	令和元年	33社

この70年の歴史の間には、我々業界では数々の技術革新があり、起業・倒産・廃業が繰り返されてきた。

栄枯盛衰は、事業を営む会社にとって世の中の常とは言え厳しい現実である。

この70年の歩みのなかで、変わり行く時代環境に着いて行くだけでなく、先見性を持って変化に対応してきた会社だけが生き残る権利を有することができたと考える。

そういう意味でも、70年の歴史は組合の大きな財産でもあり、その伝統を後世まで残すことが大事なことである。

50周年の時は、記念式典と祝賀会を開催、記念講演に全日本印刷工業組合連合会顧問塚田益男氏を講師に招き、「印刷業界を展望する」と題して講演をいただいている。

周年事業というと、記念式典・祝賀会の開催、記念誌の発刊となるのだが、今回は地域に支えられてきた組合が何らかの社会貢献事業を挙行したいと思い、組合員各位の英知を結集したいと願っている。

北海道印刷工業組合副理事長・組織共済委員長・旭川支部長 **植平有治**
植平印刷株式会社 代表取締役

幸せな働き方改革STEP3「業務革新」

池田全印工連幸せな働き方改革PT委員長が解説

7月5日に開催された令和元年度上期北海道地区印刷協議会で、池田幸寛全日本印刷工業組合連合会幸せな働き方改革プロジェクトチーム委員長が、「幸せな働き方改革STEP3〈業務革新〉」について解説を行った。

働き方改革とは



池田幸寛氏

全 印工連では、昨年度から2年間のなかで働き方改革を行うということで立ち上がっている。現在、STEP1、2が終わりSTEP3は「業務革新」と名称を付けている。業務革新を行いながら次のステップへと進んでいくが、少しおさらいをして、STEP1は最初の段階なので働き方改革とはどういうことなのかを周知させていただき本当に導入のところである。STEP2はどのような内容かという各社の経営者と社員とのズレがどの程度あるのかを社長に分かっていただきたい。社長はいつも良かれと思ってこうしてあげているのに、何故社員は反応してくれないのかという不満を持っている方もいると思う。そういうなかで社員の方の望んでいることはこういうところにあったというものを、社員満足度調査を基にその差を出していき、その格差を埋めることをしないと効率が悪い。やってほしいものと自分たちができるものとのギャップがそこに生まれてしまうので、ここを経営者の方には認識していただくためのSTEP2であった。STEP3は何かという、業務革新という名称にしている。通常でいうと改革であるが改革というのは小手先で少し試してみてやってみて、駄目であったらまた戻るというような簡単なことであるが、業務革新は根本的に考え方を変えて行こうということである。

幸せな働き方改革テキスト

今日はSTEP3の内容を少し掻い摘んで説明させていただくが、この後、どういう予定かというSTEP4で業務革新を基にした就業規則の整備をする。環境労務委員会では就業規則の整備を行っているが、そこでは基本的に法令順守、現在の法令がこうなっているのでそれに対してこうすれば良いという現状の法令に対するものを行っている、我々はそうでなくベースは法令なので守らなければならないが、業務革新に至るにあたっての就業規則の整備、STEP5は人事考課、給与規定の整備をしながら、そのベースになっている就業規則の整備をSTEP4と位置づけ今年の11月末頃を目途に仕上げしていく予定である。その後、同時進行でSTEP5人事考課・給与規定の整備を来年3月の年度末までに仕上げしていく予定である。全印工連では、セミナーを行うにもなかなか人数が集まらない、予算の関係もあるということで、先ずテキストSTEP1～3までを、全組合員の皆さんに配布することにしたので、見て

いただいて、テキストだけで分かれば、素晴らしいが、テキストだけでは多分ピンと来ないと思うので、セミナーを企画していただければと思う。

業務革新セミナーの流れ

全国の理事長が集まる全印工連の総会の前日に東京工組でSTEP3のセミナーを行った。その際に全国の理事長にもし時間が取ればSTEP3にオブザーバーで参加をお願いしたところ、何人かの理事長に参加いただいた。京都工組の理事長と一緒に社員の方のテーブルに入らせていただき試してもらった。感想は非常に楽しく、これならば一緒にやっていけると言われた。STEP2にしてもSTEP3にしても社長が勝手に行うわけではなく社員とのコミュニケーションのなかから生まれてくるセミナーとなる。従ってどちらにおかれても社長が参加して黙って座って2時間半聞いていただければそれで済むような問題でないし、それで解決できる問題でない。社員の方も一緒に巻き添えにして業務革新にどうやって取り組んでいこうかを考えていかなければならないセミナーである。どのようなかたちでSTEP3のセミナーが行われるかという、業務革新の求められている背景、業務革新として取り組む4つの方法、トトノエルの解説と環境づくりの演習、ナガレルの解説と業務の棚卸および改善策、コダワルの解説、ツクルの解説という流れで、かなり濃い内容でワークショップを社長が社員の方と一緒にテーブルで行っていただきながらどうやって進めれば良いかを探っていくセミナーになっている。

経営者と働いている人との意識の違い

ここで皆さんに質問です。今から5つの質問をしますので自分の会社はどうか心のなかで思っていたください。①皆さんの会社は5年後あるいは10年後も安泰か?②普段から仕事のやり方を見直し、効率化を図っているか?③チャレンジしていこうとする雰囲気があるか?④自ら考え、問題意識をもって行動する社員がいるか?⑤社員はやりがいを感じて取り組んでいるか?、この5つの質問のなかで1つや2つは必ず引かかるころはあると思うが、ここの問題のなかで1つでも当てはまるものがあれば業務の改善が必要になってくると思っている。今の5つの質問はセミナーのなかのワークショップで浮き彫りになっていく。社長は必ず社員は満足している、こんな幸せな社員はいないと思っている。私もそう思っている。しかし、私の会社もSTEP2を行ったところ格差が出た。経営者と働いて

いる人とは意識の違いという問題だけでなく、それを上手く埋めていくことが企業の繁栄に繋がっていく。

人手不足の増大

組織を取り巻く環境の変化がいくつかある。人手不足の増加である。私は東京の品川区に会社があり羽田空港の近くに工場がある。私は品川区の5年先の基本方針策定の委員でもある。品川区は人口がどんどん増えている。しかも20代30代が、毎年5万人くらい増えている。しかし、求人を出しても1人も来ない。何故、人が増えているのに来ないのか。要するに働き手は印刷会社に行かない。IT企業等に行ってしまう。首都圏に若者が集まりつつあって、なおかつ若者は将来性のある外資系の会社に勤めたい希望が多いと捉える。なぜ、印刷会社がそこで比較対象され落とされてしまうのか。そこを考えなければ未来は無い。格好の良い名前にすれば良いということではない。

多様化する働く人の意識

本当に社員の人たちとチームを組んでどういう会社に行きたいという夢を持ち、ベクトルを一緒にすることが若い社員たちが望んでいることである。そこには経営者のエゴが多少あったりするので、経営者の方がしっかり理解した上で社員の方たちとそれぞれの企業においてそれぞれが良いと思う方向にベクトルを合わせていくことがその企業の繁栄につながっていく。多様化する働く人の意識は、若者の意識も変わって来ている。女性の意識も変わってきている。いろいろなかたちで周りの働く人の意識が変わってきている。簡単に言えば戦後の復興の時期は、残業しようが何しようがイケイケドンドンで働けば何とかかなという諸先輩が一杯いた結果こういう良い日本になった。しかし、今の時代それはなかなか難しい。そのなかで多様化するいろいろな人の意識がある。これをどう取り込んでいくのか。勿論、全てを取り込むのは企業としては難しい。特に中小企業は難しい。そのなかできちんと特色をどう出していかかがポイントになる。

多様化する顧客のニーズ

多様化する顧客のニーズは、今日出したら明日仕上がってくる会社もあれば、それぞれの企業の特色が無いと多様化する顧客のニーズには耐え切れない。取り敢えず安ければ良いというものもあるし、場合によっては何処の会社でなければ駄目だというクオリティの部分もある。それぞれの企業がそれぞれのニーズを捉えて商売をされていると思うが、よりこの先というのはその部分を特化していく必要がある。

加速する技術革新

今から20年前Macが出てきたが、製版も含めてデジタルは100%ではなかった。今ではデジタル印刷機の素晴らしいものも出てきたりして技術革新が進んでいる。そういう部分をどう捉えていくかが必要になって

くる。要するに全てにおいて業務の革新が必要だということが業界に起きている。それを面倒くさい、10年、20年ここのまでやってきたのでこれで良いという考えを持ってしまふとこの波には乗り遅れてしまう。

業務革新「設備投資型」

業務革新には2つのアプローチがあると捉えている。1つは設備投資型である。これはスマートファクトリーである。基幹業務にMISシステムを導入し、連携させ効率化を図る改革の仕方である。それぞれのメーカーが働き方改革と命名している商品がいくつかあるが、それを買えば業務革新につながるのかといえ、そうではない。モノを買ったとしても考え方を変えないでいたら何も働き方改革にはならない。昨日までの機械は1時間に10,000枚刷れたが、今度の新しい機械は12,000枚刷れる。だから20%効率アップしたというのはいかがなものか。そうではなく全く考え方が変わってくるということを頭のなかに入れてほしい。全印工連のある仲間の会社ではMISに印刷機、製本機を全部連動させている。その結果、大体は断裁機を使う人は多分熟練者であるが、その会社はパートの女性に作業させている。皆さん、考えられるか。折機をセットアップからパートの方の任せる環境にあるか。その会社はパートである。何故、パートでできるのか。最初の受注の段階でMISに全ての情報を入れている。したがって、断裁機の横の画面を見て、右に90度回したら当てる、当てたら断裁ボタンを押すと出てできるのでできる。製本の機械もそうである。最初にデータが入っているので、折機のジョブでバーコードを読みとると、そのジョブのかたちに折機がセットアップされるのでパートの方は向きを合わせて積むだけである。そういう会社と価格とスピードで勝てるか。そうしようと言っている訳ではない。

新しい事業開発

では、その時にどうなるかということ、熟練者は要らないと首を切る訳にはいかない。熟練者だから印刷の業務を全て分かっている。その方を違うセクションに移し新しい事業開発をさせる。それによって事業拡大が図られる。例えば、規模によってはそうでない会社もあると思うが、中小企業の場合、営業の方がお客様と打合せをして帰ってきて積算見積りを行う。定時が5時だとしたら5時に会社に戻ってそれから見積り積算、内部資料を作っていたら何時になるのか。1日2時間残業したら月20日間の労働で40時間の残業になってしまう。何も業務改革にならない。それを社内にいる前述の熟練者の方が面付まで全部見積りしてくれるならば営業の方は朝から定時まで営業活動をして、そのデータを内部に逐次連絡して見積書を発行して、この作業をしようと、電話1本で済む。残業は無くなる。そういう改革をしないと働き方改革につながっていかない。設備投資型はそういうことを上手く利用しなければならぬので、設備投資型であってもこの後の従

従業員参加型の業務革新が必ず必要になってくる。全印工連では設備投資型のベースはメーカー、ベンダーの開発に任せ、この辺の意識を共有していきながら、我々はそれを買うにしても、使うにしても、従業員参加型の業務改革というアプローチが必要になってくる。

業務革新「従業員参加型」

従業員参加型は、日々、現場の従業員が取り組む変革や改善の方法を見出していくことがSTEP3である。従業員参加型のアプローチは、新たな仕事の創出をしながら生産性の向上と仕事のやりがいの向上、マインド的なものを含めて、経営者と社員の関係性の向上を図る。今も良いと思うがより向上させて、この会社、この社長のもとで働きたいというような会社を作っていく。意欲づくりである。それと人材の育成、風土の育成を重点的に考えていく、そのベースのアプローチをSTEP3で考えている。

従業員参加型の4つのアプローチ

従業員参加型の業務革新にはどのようなものがあるか4つのアプローチで捉えている。①トトノエル、②ナガレル、③コダワル、④ツクルの4つのキーワードで動かすことを考えている。

トトノエル

トトノエルは、従業員が主体的に業務革新を進められる場を整えることである。社長がそんなことしなくても良い、それは俺の想いと違うということをやっていたら何も進まない。従業員の方々がこうやった方がもっと効率よくできるという言葉を使い易くする。最終的に判断するのは経営者である。発言をする場を与えなかったら何も変わらない。それを聞いてやれる関係を社員と作るのがトトノエル、環境づくりである。何故これをしなければならないのか、何処が行きつくゴールなのか、それぞれに役割の意識付けをし、社長は心理的な安全な場を作っていくことが必要である。

ナガレル

ナガレルは、効率化である。効率化は業務の貢献対象を明確化し業務がスムーズに流れるようにする。無駄なことは結構ある。業務の棚卸をして効率化を図る。言葉では簡単であるが、本当に無駄を省いているか。無駄な会議はないか。例えば、第2木曜日は定例会と言って、議題が無くても会議に何か出さないとならない。無駄な時間である。残業がガタガタ言われている時代、そんな無駄は省いていきたい。自分の会社でもこの会議無駄ではないか、止めようと言っている。そうでないと無駄な時間が多い。それが必要ならばしょうがない。必要でないならそこで5分、10分時間を取られることを考えたらアウトだと思う。例えば、1時間無駄な会議があったとしたら、そこに10人いたら10時間分のロスタイムになる。日頃、社長はそういうロスタイムが一番嫌っているが、無駄な時間を見

て見ぬふりをしているのか、分かっているでもそれを減らそうとしないのか。他人事のように思っている。

コダワル

コダワルは、いろいろなかたちで指標がでている。中核となる価値があってそれを取り囲む物的な特性がどんどん広がっていく。自分の会社で何が中核になるものかの価値をきちんと見出していくことである。

ツクル

ツクルは、今やっていること、これからやることをきちんと棚卸をしていくことである。そのようなかたちを進めながら、業務革新を導くためにセミナーを開催していく。

先ずはトライ

STEP2とSTEP3のテキストを配布するので、手元に届いたら一度見ていただいて、STEP2からSTEP3と続けてやらないとならないのかという質問がよく出るが、どちらでも良い。STEP3からでもSTEP2からでも最初はどちらでも良いが、先ずはトライしていただいて、今までは受け身のセミナーばかりであったと思うが、社員と一緒に参加していただいてそこで一緒に何かをやって、そこからマイナスになることは絶対はない。それをきっかけにして、我が社に何か無駄はないかを一緒に話せる。多分、会社の会議室で話しても社員は仕事が忙しいので後にしてくださいというかも知れない。何社か集まったなかで意識をフラットにして行っていくことが大切である。これを行ったら全部が、業務革新ができるとは思っていない。自分たちの問題点をきちんと認識したうえで、これ以上やっていくには専門職の人と話をしなければならなかったらそれぞれがコンサルティングを仰いでいただければと思っている。今回のSTEP3のサポートは産業能率大学にお願いしている。10月に全印工連フォーラムが大阪で行われる。その時に1時間の短縮バージョンであるがSTEP3を試しにやっていただこうと思っている。

令和元年度全国青年印刷人協議会北海道・東北合同ブロック協議会 第25回北海道青年印刷人フォーラム のご案内

北海道印刷工業組合青年部委員会は、令和元年全国青年印刷人協議会北海道・東北合同ブロック協議会ならびに第25回北海道青年印刷人フォーラムを開催する。

今 回の事業テーマは、『ハイ・サービスの実践』である。

昨年、ハイ・サービス300選企業を調査し、印刷業界の「ハイ・サービス」についてディスカッションを行った。

今年は、それを活かしてハイ・サービスを実践してみようというテーマで、北海道ブロック、東北ブロックがそれぞれハイ・サービスを実践し、ブロック協議会

で発表する。

発表後は、実践した内容について協議し、より理解を深めていただき、各社の取組に結び付けていくことを目的としている。

また、懇親会も用意しているので発表で語られなかった苦労話を語り合い、地域を越えた絆を作っていくことを目指している。

記

1. 日 時 令和元年10月19日(土) 協議会 13:30~17:30 (受付13:00より)
懇親会 18:00~
 2. 会 場 TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前
(札幌市中央区北4条西6丁目1番 毎日札幌会館 5F 電話:011-252-3165)
 3. 会 費 協議会:無料/懇親会:5,000円
 4. 申 込 先 株式会社ホクラミ 担当:矢吹 Tel:011-512-3378/Fax:011-512-4289
- ※参加申込書は、北海道印刷工業組合ホームページ (<http://www.print.or.jp>) からダウンロードできる。

令和元年度DTP技能検定のご案内

厚生労働省の令和元年度技能検定 プリプレス職種「DTP作業」が実施される。DTP作業従事者の皆さまへの教育の一環として活用でき、スキルアップに繋がる。令和元年度後期に実施される製版職種「DTP作業」の主な内容は次のとおり。

【令和元年度後期技能検定 プリプレス職種「DTP作業」】

受 検 申 請 受 付	令和元年10月7日(月)~18日(金)
実 技 試 験 日 程	令和2年1月下旬~2月上旬
実技試験会場(予定)	北海道立札幌高等技術専門学院(札幌市東区北27条東16丁目) 北海道立旭川高等技術専門学院(旭川市緑が丘東3条2丁目) ※受検者数によって1会場になる場合がある。
学 科 試 験 日 程	令和2年2月9日(日)
学 科 試 験 会 場	札幌市・旭川市・函館市・滝川市・北見市・室蘭市・帯広市・釧路市の指定する会場
実 技 試 験 内 容	DTPアプリケーションを使用し、提示された指定書により、支給された課題データを組版・編集し、カラープリンターにより出力する。
受 検 区 分	1級および2級
受 検 手 数 料	実技17,900円/学科3,100円 ※35歳未満の2級実技検定受検は9,000円減額になる。
受検申請・問い合わせ先	北海道職業能力開発協会または各地方職業能力開発協会

第13回メディア・ユニバーサルデザイン コンペティション作品募集のご案内

全日本印刷工業組合連合会は、「第13回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」を開催する。

全 日本印刷工業組合連合会は、各産業界および個々の企業の社会的責任が重要視されている現在、印刷業においてもその責任を果たすためのコンプライアンス活動が求められていることを踏まえ、「すべての人に優しく、誰もが快適に利用できること」を目的として、デザインや文字など、より多くの人に伝える情報を提供する「メディア・ユニバーサルデザイン

(MUD) 活動」に取り組んでいる。

この取り組みをより強固なものにするために、今年も「第13回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」を開催し、高齢者・障がい者や子ども、外国人などに対し、見やすさ・伝わりやすさに配慮したアイデアに富んだ作品を募集している。

主 催 全日本印刷工業組合連合会
後援(順不同) 経済産業省
一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
読売新聞社、朝日新聞社、日本経済新聞社
一般社団法人日本印刷産業連合会
一般社団法人日本プロモーション・マーケティング協会
公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会
公益社団法人日本パッケージデザイン協会
日本図書設計家協会
NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会
NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構
協力(順不同) 東洋インキ株式会社、株式会社イワタ、EIZO株式会社
株式会社モリサワ、全国印刷緑友会
一般社団法人日本グラフィックサービス工業会・SPACE21
日本青年会議所メディア印刷部会

協賛(順不同) リコージャパン株式会社、コニカミノルタジャパン株式会社
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社、富士ゼロックス株式会社
株式会社山櫻

応募期間 2019年9月2日(月)～11月29日(金)

募集作品 高齢者・障がい者や子ども、外国人などに対して、見やすさ・伝わりやすさに配慮したデザイン手法を用いて制作されたもの

(例) カレンダー・地図・パンフレット・サイン・パッケージ・チラシ・ポスター・ラベル・カードゲームなど

募集部門 ①グラフィックテクニック (DTP)：文字、組版、図表、イラスト、色使いなどを工夫した作品
②商品企画：種別、分野は自由でMUDを使用したオリジナル作品
③製本、加工技術：折、製本、形態など後加工で使いやすさに工夫をした作品

※自社制作の成果物として既に流通している製品でも応募可能。

※既成の自社作品について、MUDに配慮し再制作した“before and after”の作品でも構わない。

※既成の作品の改善提案の場合は、知的財産権への抵触に注意すること。

応募資格 [一般の部] プロ・アマを問わず、どなたでも応募可能

[学生の部] 大学・短期大学・専門学校・高等学校に在学している学生・生徒

応募対象作品 2018年7月以降に制作されたもの

応募方法 作品1点とデータ1点 (CD-R、DVD、USB等の記録媒体にai/eps/jpeg/pdfのいずれかの形式でアウトライン化して保存したもの) を、出品申込書とともに送付する。

※入選作品に選ばれた場合、提出されたデータをもとに受賞作品集の制作を行う



第13回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション作品募集のご案内

出品料	応募作品1点につき、一般3,000円 学生は無料	
授与賞	[一般の部] 経済産業大臣賞 表彰状・賞金……………	100,000円
	優 秀 賞 表彰状・賞金……………	50,000円
	佳 作 表彰状・賞金……………	10,000円
	[学生の部] 経済産業大臣賞 表彰状・図書カード……………	30,000円分
	優 秀 賞 表彰状・図書カード……………	10,000円分
	佳 作 表彰状・図書カード……………	3,000円分
審査日	2019年12月18日(水)	
審査結果発表	審査日より1週間後 入選者にのみ入選通知書を送付	
審査基準	<p>a.メディア・ユニバーサルの観点から、見やすさにおいて優れているもの。</p> <p>b.斬新な発想とアイデアにより、独自の新規性や工夫・技法が考慮されているもの。</p> <p>c.色彩構成だけでなく企画・デザイン・素材などの組み合わせにより、メディア・ユニバーサルの配慮がなされているもの。</p> <p>d.それぞれのメディア（部門）において、実用的かつ機能的なもの。</p> <p>上記4点を総合的に勘案し審査を行い、最も優れた作品を経済産業大臣賞として表彰する。</p>	
審査委員	<p>寺 井 剛 俊（金沢美術工芸大学視覚デザイン研究室教授）</p> <p>武 者 廣 平（NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構理事長）</p> <p>土 生 英 彦（色覚問題研究グループぱすてる事務局長）</p> <p>高 橋 正 実（MASAMI DESIGN）</p> <p>小 浜 朋 子（静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学科准教授）</p> <p>武 田 一 孝（一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会常務理事）</p> <p>伊 藤 道 裕（NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会会長）</p> <p>橋 本 博（NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会事務局長）</p> <p>三 島 秀 夫（全日本印刷工業組合連合会CSR推進委員会委員長）</p> <p>浦久保 康 裕（全日本印刷工業組合連合会CSR推進委員会MUD部会長）</p> <p>一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会担当審査員</p>	
表彰式	2020年2月 東京都内で開催予定	
注意事項	<p>①応募作品およびデータは返却しない。</p> <p>②作品サイズによっては、作品の保管場所や審査会場・展示会場の都合により、実物による出品の受付ができない場合がある。</p>	
作品応募先	<p>公益社団法人日本印刷技術協会</p> <p>「第13回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」係</p> <p>〒166-8539 東京都杉並区和田1-29-11</p> <p>電話03-3384-3111/FAX03-3384-3481</p>	
問い合わせ先	<p>全日本印刷工業組合連合会</p> <p>〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館4階</p> <p>電話03-3552-4571/FAX03-3552-7727</p>	

FFGS主催経営セミナー2019のご案内

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社は、「経営セミナー2019」を開催する。

近年、インターネット技術を基盤とする新たなビジネスモデルやプラットフォーム等が次々と登場し、一般消費者および企業の情報発信やコミュニケーションの手段は目まぐるしいスピードで変化、多様化し続けている。

このように印刷業界を取り巻く環境は大きく変化

し、依然として厳しい状況が続いており、印刷業の経営は大変厳しい舵取りを迫られている。

同社では、このような大変厳しい時代における印刷経営の参考の一助にと、印刷業の経営者が自ら取り組まれた経験に基づいた講演により、印刷業界を元気にしていくため、「経営セミナー2019」を開催する。

日時	令和元年11月1日(金) 午後2時30分
会場	TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前 5F マーガレット (札幌市中央区北4条西6丁目 毎日札幌会館)
テーマ	「違いを作って業容拡大を図る 東洋印刷の成長戦略～印刷業から、顧客支援業への業態転換を目指して～」
講師	東洋印刷株式会社 代表取締役社長 角 高紀 氏
内容	(第1部) 角社長講演 (第2部) 経営戦略実践編 「同社 井上専務が語る東洋印刷の競争戦略～東洋印刷の強さを探る～」

※受講申込は、富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ(株)北海道支店 (電話011-241-9325) まで。

新規加入組合員

株式会社旭川田中シール印刷	[代表者] 島村信彦	旭川支部	令和元年8月1日加入
〒078-8273 旭川市工業団地3条1丁目2番1号		TEL.0166-36-4300/FAX.0166-39-7007	

業界のうごき

▶(株)ホリゾン東テクノと(株)ホリゾン西コンサルが統合し、ホリゾン・ジャパン(株)

株式会社ホリゾン東テクノと株式会社ホリゾン西コンサルは、7月21日から統合し、ホリゾン・ジャパン株式会社となり、代表取締役社長に宮崎 進氏が就任した。

(住所) 〒101-0031 東京都千代田区東神田2丁目4番5号 東神田堀商ビル5F 電話03-3863-5361



THE 13th MEDIA UNIVERSAL DESIGN COMPETITION

募集部門を
新設しました!

作品募集中

We want your ideas



第12回 経済産業大臣賞 一般の部

視覚障がい者への声のかけ方 学習セット

大阪シーリング印刷株式会社 (大阪府)
中原聡美、福尾有希望、河澄香菜子、池田由佳、
柴田みお、乗松めぐみ、平田義二、米田友規子

第12回 経済産業大臣賞 学生の部

知ろう、感染症のこと

岡山県立大学 (岡山県)
田上明莉

